

輸送動向について(平成20年12月)

平成21年1月

1. 輸送概況

今月は、下旬に日本海縦貫線での強風及び札幌地区の大雪による輸送障害が発生し、月全体では高速貨32本が運休した。

荷動きについては、米国から世界に広がった金融・経済危機により、国内実体経済は一段と悪化し、製造業の減産体制が拡大した他、消費の冷え込みも深刻になるなど、年末輸送の盛り上がりもなく、月間を通し前年を大きく下回った。

品目別に見ると、コンテナ貨物は、家電・情報機器、エコ関連物資が前年を上回ったものの、自動車部品、化学工業品、紙・パルプなど主要な品目が前年を大きく下回り、全体では前年比89.6%となった。家電・情報機器はメーカーのモダリティシフトへの取組みの進展、エコ関連物資は新規区間の輸送開始により増送となった。一方、自動車部品、紙・パルプ等は減産体制の拡大が続き、大きく減送となった。

車扱貨物は、セメント・石灰石が前年を上回ったものの、石油等が前年を下回り、全体では前年比90.6%となった。セメント・石灰石はセメント工場の定期修理時期の変更により増送となった。石油は、価格の下げ止まり感が出てきたことにより回復の兆しがでてきたものの、燃料転換の進展の他、製造業の設備稼働縮小の影響を受け、重油を中心に減送となった。

2. 輸送実績

(単位:千トン、%)

種別 扱別	月 計		前年比	年度累計		前年比
	本年実績	前年実績		本年実績	前年実績	
コンテナ	1,863	2,078	89.6%	17,442	17,572	99.3%
車 扱	1,163	1,283	90.6%	7,985	9,255	86.3%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)

扱 別	品 目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	233	237	-4	98.3%
	化学工業品	161	195	-34	82.6%
	化学薬品	123	145	-22	84.8%
	食料工業品	320	329	-9	97.3%
	紙・パルプ	257	309	-52	83.2%
	他工業品	134	157	-23	85.4%
	積合せ貨物	211	238	-27	88.7%
	自動車部品	58	74	-16	78.4%
	家電・情報機器	38	37	1	102.7%
	エコ関連物資	32	29	3	110.3%
	その他	296	328	-32	90.2%
	コンテナ計	1,863	2,078	-215	89.6%
車 扱	石油	819	898	-79	91.3%
	セメント・石灰石	112	100	12	112.3%
	車両	129	137	-8	93.9%
	その他	103	149	-46	68.9%
	車扱計	1,163	1,283	-120	90.6%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)